

地域メディア 人と人、人と街をつなぎ ローカルから新たな出合いを生み出す 公開編集会議

2016年 3月 5日(土) 14:00 ~ 16:45 (開場 13:30)

会場：仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター / 定員：50名 / 参加費：500円

ブログ、フェイスブック、ツイッター、ミニコミ誌、壁新聞…。誰もが、自由に、しかも簡単に情報発信者になれる時代です。地域活性化、地方創生、地域イノベーション…。地方に目が向けられ、ローカルな視点からの情報発信が盛んになり、地域から発信することの可能性は、無限大です。

「島根が面白い!」と、島根を拠点に活動しているローカルジャーナリストの田中輝美さんをお迎えし、地域に暮らすからこそできる情報発信のカタチを一緒に考えます。

Talk Thema

大注目! 市民ライターってなんだ?

島根からやってきたローカルジャーナリスト

なぜいま、地域でミニコミ誌をつくるのか

マチには、ワクワクビトがたくさん

人とマチをつなげるって、面白い!

GUEST

田中輝美 さん
ローカルジャーナリスト



profile

島根県浜田市生まれ。

1999年山陰中央新報社に入社。

記者をしながら地域で働く喜びに目覚める。琉球新報社との合同企画「環りの海一竹島と尖閣」で2013年日本新聞協会賞受賞。有志でブログ「シマプロ!」を運営し、100人規模のイベントを開催。2014年秋に独立。著書に、2015年8月クラウドファンディングで資金を募り出版した『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』(ハーベスト出版)がある。

お申込み/お問い合わせ 仙台市市民活動サポートセンター

電話、メール、サポセン窓口にてお申込みください。

※メールでお申込みの際は、件名を【地域メディア】として、氏名・年代・

住所・電話番号・メールアドレスをお知らせください。

主催：仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター)

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

MAIL sendai@sapo-sen.jp HP <http://sapo-sen.jp/>

アクセス：JR 仙台駅西口から徒歩15分 / 地下鉄南北線広瀬通駅西5番出口すぐ / 地下鉄東西線青葉通一番町駅北1番出口から徒歩6分 / 市営バス「商工会議所前」「電力ビル前」徒歩3分。サポセンに駐車場・駐輪場はございません。

地域メディア公開編集会議

14:00 ~ 14:20

オープニング

大注目！市民ライターってなんだ？

サポセンの講座受講をキッカケに、少しずつ発信力を高め、活動範囲を広げている市民ライターたち。その取り組みから「市民ライターには何が求められているのか？」を問いかけます。

Program

15:20 ~ 15:50

事例紹介

2

なぜいま、
地域でミニコミ誌をつくるのか



畠山茂陽 さん

河北新報社「あらっ E」プロジェクト
プロデューサー

荒井の魅力を掘り起し、情報発信するため、ミニコミ誌「あらっ E」を住民や市民ライターと共に発行。活動をしている中で芽生えた愛着、見えてきた地域の課題。地域をターゲットに据えた地元新聞社の試みと、地域に市民ライターの視点が入ることの波及効果についてお聞きします。

profile

宮城県仙台市出身。1993年河北新報社入社。販売部（学び応援チーム）に所属し、営業畑から新聞普及のため様々なプロモーションを仕掛ける。地下鉄東西線の東の玄関口七郷・荒井地区に特化した発信を行う「あらっ E」プロジェクトを担当。ミニコミ紙をツールに地域の魅力を発見し伝えている。NPO法人ファイブブリッジ理事長も務める。

Program

3

16:00 ~ 16:45

トークセッション&交流

人とまちをつなげるって、おもしろい！



田中輝美 さん

ローカルジャーナリスト



大泉大介 さん

河北新報社デジタル推進室記者

Program

1

14:20 ~ 15:10

基調講演

島根からやってきたローカルジャーナリスト

田中輝美 さん

ローカルジャーナリスト

地域づくりにおいて、その土地に根付いて活動するのは「土の人」。外部から変化をもたらす地域に新しい風を吹き込むのは「風の人」。島根を拠点に、島根を記録し、島根の面白さや地域の価値を発信しています。田中さんの活動をもとに、地域から発信する意味についてお話をいただきます。

マチには、ワクワクビトがたくさん



小林奈央 さん

情報ボランティア@仙台 代表

2015年度から、サポセンの機関紙「ぱれっと」の表紙・ワクワクビトの記事の取材執筆を担う。通常の生活の中では出会う機会がなかった市民活動者の取材をすることで、学生たちは視野を広げ、社会に多くの課題があることを体感しました。その実践例を学生側の視点からお聞きします。

profile

東北学院大学4年。2012年から情報ボランティア@仙台的活動に関わり、学生の視点から被災地の震災復興の様子を伝え続けてきた。2015年度からは、サポセンの機関紙「ぱれっと」の記事の執筆協力をしている。河北新報社と一般社団法人ワカツクが共催する「記者と駆けるインターン」5期生。

今、なぜ地域に目を向けた情報発信が必要なの？市民が情報発信することは、今後の仙台のまちづくりにどんな役割を果たすのだろうか…？地元新聞社として、「地域に住む人たちの発信が、地域の価値を決める」と、日々地域の情報発信者育成に取り組む大泉さんと、「今、地域が最も新しく、チャレンジできる場所」と語る田中さんによる対談。また、参加者を交えて意見交換も行います。

profile

宮城県大崎市出身。1995年河北新報社入社。報道部、特報部、大崎支局などを経て、現在のデジタル部門。2012年から大学生向け事業「記者と駆けるインターン」を担当し、次世代の情報発信力強化に尽力。関わった学生は230人を超える。2015年から、サポセンと河北新報社共催の「市民ライター講座」で講師も務めている。